

資料

【資料】

手話通訳ニーズ調査

【1 あなたの状況についてお書きください】

問1 年齢 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代
5 50代 6 60代 7 70代 8 80代以上

問2 性別 1 男性 2 女性

問3 障害程度 1 1級 2 2級 3 3級 4 その他()

問4 最後に、卒業した学校の番号に をつけてください。

普通学校…1 小学 2 中学 3 高校
ろう学校…4 小学 5 中学 6 高校 7 専攻科
8 専門学校 9 大学 10 短期大学
11 その他() 12 どこも卒業していない

問5 現在の職業

1 会社員 2 自営業 3 団体職員 4 公務員(教員含む)
(どのような仕事ですか)
5 無職 (日中は主に何をしていますか)
6 生徒・学生
7 その他()

問6 家族構成

1 一人暮らし 2 夫婦 3 核家族(夫婦+子)
4 三世代家族(親+夫婦+子) 5 その他()

問7 生活状況

1 ゆとりがある 2 ややゆとりがある 3 どちらでもない
4 やや苦しい 5 たいへん苦しい
苦しい理由は何ですか

問8 コミュニケーション手段として手話(ホームサイン・身振り等も含む)を利用しますか

1 使う 2 使わない (何を使いますか)

問9 この1年の間に手話通訳はどの程度、利用しましたか

- 1 週1回以上 2 月に2～3回 3 年に2～3回 4 利用していない
5 その他()

問10 手話通訳を依頼して断られたことがありますか。

- 1 ない 2 ある(その理由は)

問11 お住まいの行政による情報保障・コミュニケーション支援の施策に満足していますか

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらでもない 4 やや不満 5 不満
その理由をお書きください。

問11-1 現在、介護や介助、その他の生活について支援が必要ですか

- 1 必要ではない
2 なくともなんとか生活できるが、充実した生活のためには支援が必要である
3 必要である

問11-2 上記問11-1で、2または3を選ばれた方にお尋ねします。
どのような支援が必要ですか。具体的にお書きください。

問12 聴覚障害のために情報が得られなかったり、コミュニケーションができなかったりして困ったり、健聴者に比べて不利だと思ったことが、おおよそ1日にどのくらい生じていますか。最近の平日と休日の両方の場合をお答えください。

- <平日の場合> 1 よく生じている、 2 時々生じている
 3 たまに生じている、 4 まったく生じていない

- <休日の場合> 1 よく生じている、 2 時々生じている
 3 たまに生じている、 4 まったく生じていない

問13 問12で、1～3を選択した方に伺います。具体的な回数(目安)をお書きください。
平日(回) 休日(回)

【2 ある一日の情報保障・コミュニケーション支援の必要性についてお書きください】

昨日、起きてから寝るまでを振り返って、 から に当てはまれば したうえで、右に具体的な内容をお書きください。

なお、昨日は、平日か休日か選択してください 1 平日 2 休日

時間	一日の行動	情報やコミュニケーションに支障があった	手話通訳等の必要度4段階評価	実際に手話通訳等を利用した	手話通訳の必要度の選択肢： 絶対に必要だと思った： 、 必要だと思った： 、 いなくてもがまんできた： 、 いなくてもよい： x
					具体的な理由や内容をできるだけ詳しく書いてください
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
~5					
合計					

【3 1年間の情報保障やコミュニケーション支援の必要性についてお書きください】

この1年間に、情報やコミュニケーションについて、どのようなことで困ったり、健聴者に比べて不利だと思ったことがありましたか。5つ以上8つまで、できるだけ具体的にお書き下さい。

また、そのときに、手話通訳がいた方がよかったかどうか、

手話通訳依頼にいたらなかった理由、についてもお書きください。

	具体的な困り事
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

【資料】

平成 17 年度

「聴覚障害者のコミュニケーション支援の現状把握および再構築検討事業」
養成・認定委員会『手話通訳者養成・手話通訳士養成にかかるアンケート』

協会名(_____)

回答者名(_____)

1. 手話通訳者養成事業について

(平成 17 年度現在で回答してください。都道府県・政令指定都市分。市町村実施分については除外してください。)

厚生労働省の通知するカリキュラムに沿った手話通訳者養成事業の実施について(基本講座・応用講座・実践講座) 1～3の該当するところを
をしてください。

- 1 完全実施している に進んでください
- 2 一部実施している に進んでください
- 3 実施していない に進んでください

手話通訳者養成事業の実施状況(で「完全実施している」と回答)

ア 各講座の実施状況について下の表に記入して下さい。(政令指定都市を含む場合はその数値を合わせて記入して下さい)

	講座時間数	講座開催地域数(ヶ所)	講座受講者定員(全体の人数)	講座予算(全体)
基本講座				円
応用講座				* 内公費
実践講座				約 円

イ 上記の講座開催地域数の中で、平日昼間に開催しているところがあれば、その地域数を記入して下さい。

基本講座 _____ヶ所
応用講座 _____ヶ所
実践講座 _____ヶ所

ウ 講座実施上の課題（複数ある場合は複数 をつけて下さい）

[運営にかかわる課題]

- | | | |
|--------------|-----------|---------|
| 1 講座運営委員会の開催 | 2 予算確保 | 3 講師の確保 |
| 4 運営スタッフの確保 | 5 受講者数の確保 | |
| 6 講座期間の設定 | | |
| 7 その他（ | | ） |

[講座の実施にかかわる課題]

- | | |
|--------------|------------|
| 1 講座会場の確保 | 2 講師の打ち合わせ |
| 3 テキスト・教材の内容 | 4 独自教材の開発 |
| 5 受講者のレベル | 6 進級認定 |
| 7 視聴覚機器の確保 | |
| 8 その他（ | ） |

エ 独自に作成した教材等ありますか。

- ・ある ・ない

「ある」場合は、一部を本委員会に提供下さい。

オ その他養成講座において工夫していることがあれば記入してください。

--

カ 近年の手話通訳者登録試験（都道府県・政令指定都市分）の合格者の推移（政令指定都市を含む場合は合計の数値）

年度	H12	H13	H14	H15	H16
人数					

* に進んでください

手話通訳者養成事業の実施状況（ で「一部実施している」と回答）

ア 各講座の実施状況について下の表に記入して下さい。（政令指定都市を含む場合はその数値を合わせて記入してください）

	講座時間数	講座開催地域数（ヶ所）	講座受講者定員（全体の人数）	講座予算（全体）
基本講座				円
応用講座				* 内公費
実践講座				約 円

イ 上記の講座開催地域数の中で、平日昼間に開催しているところがあれば、その地域数を記入して下さい。

基本講座 _____ヶ所

応用講座 _____ヶ所

実践講座 _____ヶ所

ウ 講座実施上の課題（複数ある場合は複数 をつけて下さい）

[運営にかかわる課題]

- | | | |
|----------------|-----------|---------|
| 1 講座運営委員会の開催 | 2 予算確保 | 3 講師の確保 |
| 4 運営スタッフの確保 | 5 受講者数の確保 | |
| 6 講座期間の設定 | | |
| 7 その他（ _____ ） | | |

[講座の実施にかかわる課題]

- | | |
|----------------|------------|
| 1 講座会場の確保 | 2 講師の打ち合わせ |
| 3 テキスト・教材の内容 | 4 独自教材の開発 |
| 5 受講者のレベル | 6 進級認定 |
| 7 視聴覚機器の確保 | |
| 8 その他（ _____ ） | |

エ 独自に作成した教材等ありますか。

・ある ・ない

「ある」場合は、一部を本委員会に提供下さい。

オ その他養成講座において工夫していることがあれば記入してください。

カ 近年の手話通訳者登録試験（都道府県・政令指定都市分）の合格者の推移（政令指定都市を含む場合は合計の数値）

年度	H12	H13	H14	H15	H16
人数					

* に進んでください

手話通訳者養成事業を行っていない理由（ で「実施していない」と回答）

（複数理由がある場合は複数 をつけて下さい）

[運営にかかわる課題]

- 1 講座運営委員会の開催
- 2 予算確保
- 3 講師の確保
- 4 運営スタッフの確保
- 5 受講者数の確保
- 6 講座期間の設定
- 7 行政の理解不足
- 8 独自のカリキュラムで事業を行っている
- 9 その他（)

[講座の実施にかかわる課題]

- 1 講座会場の確保
- 2 テキスト・教材不足
- 3 独自教材の開発
- 4 受講者のレベル
- 5 視聴覚機器の確保
- 6 その他（)

* に進んでください

手話通訳者養成事業・講座の実施について、改善すべき点がありましたら記入してください。

2. 手話通訳士養成事業について

(平成17年度現在で回答してください。都道府県・政令指定都市分。市町村実施分については除外してください。)

手話通訳士養成事業の実施について1～3の該当するところに をして ください。

- 1 実施している(数ヶ月継続) _____ に進んでください
- 2 一部実施している(単発で数回程度) _____ に進んでください
- 3 実施していない _____ に進んでください

手話通訳士養成事業の実施状況

(で「実施している」「一部実施している」と回答)

ア 講座の実施状況について下の表に記入して下さい。(政令指定都市を含む場合はその数値を合わせて記入してください)

	講座時間数	講座開催地域数(ヶ所)	講座受講者定員(全体の人数)	講座予算(全体)
手話通訳士養成講座の実施				円 * 内公費 約 円

イ 講座実施上の課題(複数ある場合は複数 をつけて下さい)

[運営にかかわる課題]

- 1 講座運営委員会の開催
- 2 予算確保
- 3 講師の確保
- 4 運営スタッフの確保
- 5 受講者数の確保
- 6 講座期間の設定
- 7 その他(_____)

[講座の実施にかかわる課題]

- 1 講座会場の確保
- 2 講師の打ち合わせ
- 3 テキスト・教材の内容
- 4 独自教材の開発
- 5 受講者のレベル
- 6 進級認定
- 7 視聴覚機器の確保
- 8 その他(_____)

ウ 使用している教材は何ですか。名称・発行元を記入してください。
()

独自に作成した教材等ありますか。

・ある ・ない

「ある」場合は、一部を本委員会に提供下さい。

エ その他、養成講座において工夫していることがあれば記入してください。

--

オ 近年の手話通訳士試験の合格者の推移(政令指定都市を含む場合はその数値を合わせて記入してください)

年度	H12	H13	H14	H15	H16
人数					

* に進んでください

手話通訳士養成事業を行っていない理由(で「実施していない」と回答)
(複数理由がある場合は複数 をつけて下さい)

[運営にかかわる課題]

- | | | |
|--------------|-----------|---------|
| 1 講座運営委員会の開催 | 2 予算確保 | 3 講師の確保 |
| 4 運営スタッフの確保 | 5 受講者数の確保 | |
| 6 講座期間の設定 | 7 行政の理解不足 | |
| 8 その他 () | | |

[講座の実施にかかわる課題]

- | | |
|------------|-------------|
| 1 講座会場の確保 | 2 テキスト・教材不足 |
| 3 独自教材の開発 | 4 受講者のレベル |
| 5 視聴覚機器の確保 | |
| 6 その他 () | |

* に進んでください

手話通訳士養成事業・講座の実施について、必要なこと・改善すべきことがありましたら記入してください。

再構築検討委員会における「養成・認定作業委員会」にて検討している課題についてのご意見、あるいは検討してほしい課題や提案等がありましたらご記入ください。

【資料】

平成 17 年度

「聴覚障害者のコミュニケーション支援の現状把握および再構築検討事業」
養成・認定委員会『手話通訳者養成と手話通訳者統一試験にかかるアンケート』

協会名 _____

回答者名(_____)

1. 手話通訳者統一試験に合格した人のうち、平成 11 年度からの手話通訳者養成カリキュラムに基づく講習会修了者は何人ですか。

	H13	H14	H15	H16
手話通訳者養成カリキュラム講習会修了者の合格者数				
その他の合格者数				
合格者 合計				

2. 養成カリキュラムを受講するレベル(基礎課程修了相当)について、留意していることがあればア イ ウ についてお答えください。

ア 基本課程の受講資格はどんな条件設定をしていますか

() 設定している。

条件設定の内容()

() 設定していない。

イ 基本課程の受講者を面接試験等により選抜していますか

() 実施している。

試験の内容()

() 実施していない。

ウ 入門・基礎課程の実施について「手話通訳者養成」と関係づけて留意していることがありますか。ある場合は記述ください。

3. 養成カリキュラムの実施で工夫し、手話通訳者統一試験合格に成果があったと思うことは何でしょうか。基本・応用・実践の各課程ごとに、成果があったと思われる観点に を記入して下さい。できれば、その観点について成果のあった工夫のポイントをご記入下さい。

	基本課程	応用課程	実践課程
時間数			
会場設定			
講師の指導力			
自宅研修課題			
(進級)試験			
副教材の工夫			
その他			

4．手話通訳者統一試験の合格のため、特別研修（対策講座など）を実施したり、通常の養成課程の中で試験対策を意識した学習方法（模擬試験など）を取り入れるなどの工夫がありましたか。

（ ）特別研修を実施した（ ）通常の養成講座に試験対策の学習方法を取り入れた
その内容（ ）

（ ）実施していない

5．手話通訳者統一試験の合格率について（上がった または 下がった理由として考えられることを）ご記入下さい。

--

6. 各課程のカリキュラム、テキストの内容が、手話通訳者として登録試験に合格し手話通訳活動に従事するための力になっているかどうかについてお聞きします。下表の各課程のカリキュラム、テキストの内容の各項目について、その評価を記入してください。

役に立っている… まあまあ役に立っている…
 どちらともいえない… 役に立っていない…×

課程	教科名と内容	テキストの内容	評価
基本課程	手話通訳能力の向上 シャドーイングトレーニング サマリートレーニング	手話通訳に入る前に	
		通訳にチャレンジ	
		要約 文章、テープ、手話	
	手話通訳の技術 逐次、同時	聞き取り通訳	
		読み取り通訳	
	場面における手話通訳技術 申請、電話、挨拶、面接、会議	場面における通訳練習	
講義			
応用課程	手話通訳能力の向上 デカラージ、イントラリンガル	要約 テープを聞いて	
		要約 手話を見て	
	手話通訳の技術 逐次、同時	通訳演習 聞き取り	
		通訳演習 読み取り	
	場面における手話通訳技術 講演、会議、面接	事例研究	
		通訳演習	
講義			
実践課程	模擬通訳場面練習		
	手話通訳実習	事例研究とロールプレイ	
		観察	
		実習	
講義			

【資料】 手話通訳士・手話通訳者養成等カリキュラムモデル(案)

1. 手話通訳者養成・入門課程モデル(案)

* 各回 2 時間

合計 40 時間

回	実技編	講義編	その他
1	開講式 第 1 講座 つたえあってみましょう 1	聴覚障害の基礎知識	
	手話の基礎となる、手や身体を使って伝えあえることと、物の形や動きを視覚的にとらえることを学ぶ。	手話教室 入門課程 対応 P 48 ~ 52 を参考	
2	第 2 講座 つたえあってみましょう 2 指文字 1 (あ~お、か~こ)		
	第 1 講座で学んだことを基本にして、表情や強弱めスピードをつけて気持ちや意思を身振りでつたえる練習をする。		
3	第 3 講座 名前を紹介しましょう 指文字 2 (さ~そ、た~と)		
	手話を使って、名前の表し方を学ぶ。		
4	第 4 講座 家族を紹介しましょう 指文字 3 (な~の、は~ほ)		
	人物の表現の基礎となる手話と家族の表現を学ぶ。		
5	第 5 講座 趣味について話しましょう 指文字 4 (ま~も、や~よ)		
	趣味について、身振りの工夫や手話を学ぶ。		
6	第 6 講座 数字を使って話しましょう 指文字 5 (ら~ろ、ん)		
	数を正確に表わすよう、数の表し方を学ぶ。		
7	第 7 講座 仕事について話しましょう	手話の基礎知識	
	仕事について、身振り、指さし、表情などを使いながら、見てわかりやすい表現を学ぶ。	手話教室 入門課程 対応 P 53 ~ 58	
8	第 8 講座 あなたの家を紹介しましょう。		
	住所の紹介や場所について、空間や方向などの空間的表現の工夫を学ぶ。		
9	第 9 講座 自己紹介をしましょう		行事紹介・参加呼びかけ
	第 8 講座までを復習し、自己紹介の表現と会話がスムーズにできるように学ぶ。		
10	第 10 講座 一日のことを話しましょう		
	時の表し方について、一日の生活、時間を使って表現することを学ぶ。		

1 1	第 11 講座 一ヶ月のことを話しましょう	聴覚障害者の生活	
	一ヶ月の生活について、時の経過の表し方を学ぶ。	手話教室 入門課程 対応 P 59 ~ 63	
1 2	第 12 講座 一年のことを話しましょう	聴覚障害者の体験	
	一年のことを話しながら、使える手話単語や表現の工夫を学ぶ。		
1 3	第 13 講座 新年会のことを話しましょう 都道府県名 1 (15カ所)		
	新年会について疑問詞を使って、会話練習をする。		
1 4	第 14 講座 旅行のことを話しましょう 都道府県名 2 (15カ所)		
	旅行のことを話題にして、疑問詞を使って会話練習をする。		
1 5	第 15 講座 話し合ってみましょう 1 「あしたの予定は？」 都道府県名 3 (17カ所)		
	手話を使って、簡単会話文を元に、質問と答えの形で、手話表現の工夫学ぶ。		
1 6	第 16 講座 話し合ってみましょう 2 「お元気ですか」政令指定都市名		
	会話例を元に、手話表現方法や聴覚障害者の表現のビデオを見て学ぶ。		
1 7	第 17 講座 話し合ってみましょう 3 「食事に行こう」		行事参加体験交流 1
	道順を教える時の空間の使い方を工夫しわかりやすい表現を学ぶ。		
1 8	第 18 講座 話し合ってみましょう 4 「どうしたのですか？」		行事参加体験交流 2
	保育所での会話について、状況を想像しながら、身振りを交えた具体的表現を学ぶ。		
1 9	第 19 講座 まとめ学習(選択学習)		行事参加体験交流 3
	第 1 講座 ~ 第 18 講座で学んだことを確認し、聴覚障害者と交流する。		
2 0	第 20 講座 まとめ学習(選択学習) 閉講式 交流会		手話サークル活動紹介/手話通訳者養成講座紹介
	第 1 講座 ~ 第 18 講座で学んだことを確認し、聴覚障害者と交流する。		

備考 第 17 回 ~ 第 20 回は、テキストに基づく学習か又は、地域の行事への参加の体験を通して体験・交流する学習かを選択する

2. 手話通訳者養成・基礎課程・基本課程・応用課程モデル(案)

第1期課程：基礎課程 40 時間

第2期課程：基本課程 40 時間

第3期課程：応用課程 40 時間 合計 120 時間

講座の区分と受講資格

講 座	受 講 資 格
第1期課程 40 時間 現行の 手話奉仕員養成カリキュラム 「基礎課程」	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳者養成事業入門課程修了者 ・高校・専門学校・大学等で手話通訳者養成・入門課程程度の学習を終えた者 ・手話サークル、カルチャーセンター等で半年～1年程度手話学習を行った者
第2期 40 時間 現行の 手話通訳者養成カリキュラム 「基本課程」	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳者養成基礎課程修了者 ・高校・専門学校・大学等で手話通訳者養成講座基礎課程程度の学習を終えた者 ・手話サークルで2年程度手話学習を行った者
第3期 40 時間 現行の 手話通訳者養成カリキュラム 「応用課程」	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳者養成基本課程修了者 ・専門学校・大学等で手話通訳者養成基本課程程度の学習を終えた者

講座内容

1) 「手話通訳者養成講座：第1期課程（基礎課程）」の実施モデル(案)

* 各回 2 時間

回	実技編	講義編	その他
1	開講式 第1講座 第2講座		行事紹介・参加呼びかけ
2	第3講座 第4講座		
3	第5講座 第6講座		
4	第7講座 第8講座		
5	第9講座 第10講座		行事参加体験交流 1
6	第11講座 第12講座	障害者福祉の基礎 1	
7	第13講座 第14講座	障害者福祉の基礎 2	
8	第15講座 第16講座		行事参加体験交流 2
9	第17講座 第18講座	聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度 1	
10	第19講座 第20講座	聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度 2	
11	第21講座 第22講座		行事参加体験交流 3
12	第23講座 第24講座	ボランティア活動 1	
13	第25講座 第26講座	ボランティア活動 2	
14	第27講座 まとめ		行事参加体験交流 4
15	実技到達度評価試験 学習交流会 閉講式		手話通訳者養成講座第2期課程紹介

* 上記内容を 4 ~ 6 カ月程度で実施

* 受講者には毎回次回講座の学習範囲の予習・復習が指示される。

* 自主学習用の補助教材の有効活用および地域行事への参加による交流学习が奨励されるものとする。

2) 「手話通訳者養成講座：第2期課程（基本課程）」の実施モデル(案)

* 各回2時間

回	実技編	講義編	その他
1	開講式 第1講座 第2講座		行事紹介・参加呼びかけ
2	第3講座 第4講座		
3	第5講座 第6講座		
4	第7講座 第8講座		
5	第9講座	手話通訳の心構え1	行事参加体験交流1
6	第10講座	手話通訳の心構え2	
7	第11講座 第12講座		
8	第13講座	身体障害者福祉概論1	
9	第14講座	身体障害者福祉概論2	
10	第15講座 第16講座		
11	第17講座	ソーシャルワーク概論1	行事参加体験交流2
12	第18講座	ソーシャルワーク概論2	
13	第19講座 第20講座		
14	まとめ		
15	実技到達度評価試験 学習交流会 閉講式		手話通訳者養成講座第3期課程紹介

* 上記内容を4～6カ月で実施

* 受講者には毎回次回講座の学習範囲の予習・復習が指示される。

* 自主学習用の補助教材の有効活用および地域行事への参加による交流学习が奨励されるものとする

3) 「手話通訳者養成講座：第3期課程（応用課程）」の実施モデル(案) * 各回2時間

回	実技編	講義編	その他
1	開講式 第1講座 第2講座		行事紹介・参加呼びかけ
2	第3講座 第4講座		
3	第5講座 第6講座		
4	第7講座	手話通訳の理念と仕事1	
5	第8講座	手話通訳の理念と仕事2	行事参加体験交流1
6	第9講座 第10講座		
7	第11講座	ことばの仕組み1	
8	第12講座	ことばの仕組み2	
9	第13講座 第14講座		
10	第15講座	手話通訳の健康管理1	
11	第16講座	手話通訳の健康管理2	行事参加体験交流2
12	第17講座 第18講座		
13	第19講座 第20講座		
14	まとめ		
15	実技到達度評価試験 学習交流会 閉講式		手話通訳者認定試験について/手話通訳者登録について

* 上記内容を4～6カ月で実施

* 受講者には毎回次回講座の学習範囲の予習・復習が指示される。

* 自主学習用の補助教材の有効活用および地域行事への参加による交流学习が奨励されるものとする

3. 手話通訳者現任研修モデル(案)

1) 手話通訳者基礎研修 (各 2 時間合計 30 時間 + 現場実習 4 時間 × 3 回)

	実技・講義 (テキスト「手話通訳者養成講座・実践課程」使用)
1	手話通訳登録制度の概要
2	手話通訳実習 模擬通訳場面演習 1
3	手話通訳実習 模擬通訳場面演習 2
4	手話通訳実習 事例研究とロールプレイ 1
5	手話通訳実習 事例研究とロールプレイ 2
6	手話通訳実習 事例研究とロールプレイ 3
7	手話通訳実習 事例研究とロールプレイ 4
8	手話通訳理念と仕事
9	手話通訳実習 通訳実習 1 講演
1 0	手話通訳実習 通訳実習 2 講演
1 1	手話通訳実習 通訳実習 1 会議
1 2	手話通訳実習 通訳実習 2 会議
1 3	手話通訳実習 通訳実習 1 面接
1 4	手話通訳実習 通訳実習 2 面接
1 5	聴覚障害児の言語発達

2) 設置手話通訳者研修

設置手話通訳者を対象とする現任研修

- ・手話通訳事業や聴覚障害者福祉事業に関する事業計画・事業運営・事業報告・コーディネートに関する研修

3) 中堅手話通訳者研修

手話通訳者登録後 2 年目以降を目安に履修する。

- ・医療、教育、福祉、生活、司法等の様々な場面・内容に関する研修を実施
- ・実習研修してろう重複障害者施設研修、ろう高齢者施設研修それぞれ二日程度のグループ研修を実施
- ・集団研修として全国の手話通訳者などを含む手話学習者と共同した学習機会は聴覚障害者が地域で協同する人々との交流を通じて活動の場の違いや果たす役割などを学ぶ。
- ・社会福祉の状況など最新の情報を学ぶことで社会福祉の状況を知り、手話通訳者としての視点を磨く。

* この他手話通訳士協会が生涯研修として規定する研修を受けることでその質を担保する。

4. 手話通訳士養成・講座モデル(案)

養成カリキュラム・形態(例)

- ・養成(受講)期間 5月～10月
- ・スクーリング時間 72時間 (12時間×6カ月)
- ・自宅学習時間 120時間 (1時間×20日×6カ月)

	スクーリング		自宅学習	
5月	実技 第1講座課題	8 H	実技 第1講座課題	計 20 H
	講義 国語	4 H	講義 国語	
6月	実技 第2講座課題	8 H	実技 第2講座課題	計 20 H
	講義 障害者福祉論	4 H	講義 障害者福祉論	
7月	実技 第3講座課題	8 H	実技 第3講座課題	計 20 H
	講義 聴覚障害者学概論	4 H	講義 聴覚障害者学概論	
8月	実技 第4講座課題	8 H	実技 第4講座課題	計 20 H
	講義 手話	4 H	講義 手話	
9月	実技 第5講座課題	8 H	実技 第5講座課題	計 20 H
	講義 手話通訳実践技術・演習 1	4 H	講義 手話通訳実践技術・演習	
10月	実技 第6講座課題	8 H	実技 第6講座課題	計 20 H
	講義 手話通訳実践技術・演習 2	4 H	講義 手話通訳実践技術・演習	

* ここでは全日本ろうあ連盟が開発した「手話通訳士養成カリキュラム」(手話通訳士養成カリキュラム開発委員会 1996年(平成8年)3月)をもとに構成した。

5. 手話指導者養成・手話通訳指導者養成モデル(案)

手話指導者養成事業「手話指導者養成講座」

手話通訳養成事業・入門課程の手話指導者を養成する事業の一つとして「手話指導者養成講座」を40時間実施。

手話指導者養成講座モデル(案)

	実技(テキスト:手話指導者養成コース)	講義(テキスト:手話指導者養成コース)
1	開講式 第1講座 入門課程と手話指導	手話および手話通訳に関する学習指導要領について
	入門課程の目的と講師の役割について実技を学ぶ。	
2	第2講座 養成カリキュラムとテキストの使い方	講座指導にあたって
	カリキュラムの作り方やテキストの使い方を学ぶ。	
3	第3講座 学習指導案作成1	講座のすすめ方
	指導案の作成を学ぶ。	
4	第4講座 学習指導案作成2	聴覚障害者の福祉と運動
	グループに分けて、指導案作成の実習を行う。	
5	第5講座 言葉の置き換え・表情	障害者福祉の基礎
	手話の基本文法を理解し指導することを目的に、「言葉の置き換え・表情」の指導方法を学ぶ。	
6	第6講座 具体的表現	聴覚障害の基礎知識
	手話の基本文法を理解し指導することを目的に、「具体的表現」の指導方法を学ぶ。	
7	第7講座 主語の明確化・代名詞化的活用	手話の基礎知識
	手話の基本文法を理解し指導することを目的に、「主語の明確化・代名詞化的活用」の指導方法を学ぶ。	
8	第8講座 時間・空間活用	聴覚障害者の生活
	手話の基本文法を理解し指導することを目的に、「時間・空間活用」の指導方法を学ぶ。	
9	第9講座 同時的表現	講習会企画と運営
	手話の基本文法を理解し指導することを目的に、「同時的表現」の指導方法を学ぶ。	
10	模擬(実力)試験 閉講式	講師としての心構え
	手話指導に関する知識の見極めとして筆記試験を行う。	

手話通訳指導者養成事業「手話通訳指導者養成講座」

都道府県で手話通訳者養成を行う指導者の養成事業として、手話通訳指導者養成事業「手話通訳指導者養成講座」を50時間実施。

手話通訳指導者養成講座モデル(案) 第2期(基本課程)、第3期(応用課程)

* 各回2時間

回	カリキュラム
1	講義 手話通訳者養成カリキュラム、テキストの概要、講師の役割
2	手話の基本文法活用の指導方法 モデル講座演習
3	手話の基本文法活用の指導方法 模擬講座演習
4	通訳の基本(メッセージの理解)の指導方法 モデル講座演習
5	通訳の基本(メッセージの理解)の指導方法 模擬講座演習
6	通訳技術(聞き取り通訳)の指導方法 モデル講座演習
7	通訳技術(聞き取り通訳)の指導方法 模擬講座演習
8	通訳技術(読み取り通訳)の指導方法 モデル講座演習
9	通訳技術(読み取り通訳)の指導方法 模擬講座演習
10	通訳技術(聞き取り通訳)レベルアップの指導方法 モデル講座演習
11	通訳技術(聞き取り通訳)レベルアップの指導方法 模擬講座演習
12	通訳技術(読み取り通訳)レベルアップの指導方法 モデル講座演習
13	通訳技術(読み取り通訳)レベルアップの指導方法 模擬講座演習
14	場面通訳技術の指導方法 モデル講座演習
15	場面通訳技術の指導方法 模擬講座演習
16	事例研究の指導方法 モデル講座演習
17	事例研究の指導方法 模擬講座演習
18	ロールプレイ指導方法 モデル講座演習
19	ロールプレイ指導方法 模擬講座演習
20	講義 手話通訳の心構え
21	講義 手話通訳の理念と仕事
22	講義 ソーシャルワーク概論
23	講義 手話通訳者の健康
24	講義 ことばのしくみ
25	講義 手話通訳者の健康管理

手話通訳専門指導者養成事業「手話通訳専門指導者養成講座」

国および都道府県で、手話通訳者現任研修、手話通訳士養成を行う指導者の養成事業として、手話通訳専門指導者養成事業「手話通訳専門指導者養成講座」を40時間実施。

手話通訳専門指導者養成講座「現任研修・基礎課程」「手話通訳士養成」モデル(案)

* 各回2時間

回	カリキュラム
1	講義 手話通訳専門指導者養成の目的、カリキュラム、テキストの概要
2	模擬通訳場面実習の指導方法 モデル講座演習
3	模擬通訳場面実習の指導方法 模擬講座演習
4	事例研究とロールプレイ（学校場面）の指導方法 モデル講座演習
5	事例研究とロールプレスの指導方法（学校場面） 模擬講座演習
6	事例研究とロールプレイ（職場場面）の指導方法 モデル講座演習
7	事例研究とロールプレイ（職場場面）の指導方法 模擬講座演習
8	事例研究とロールプレイ（医療場面）の指導方法 モデル講座演習
9	事例研究とロールプレイ（医療場面）の指導方法 模擬講座演習
10	事例研究とロールプレイ（福祉場面）の指導方法 モデル講座演習
11	事例研究とロールプレイ（福祉場面）の指導方法 模擬講座演習
12	手話通訳実習の指導方法 通訳観察・実習場面の作り方について
13	手話通訳実習の指導方法 モデル講座演習
14	手話通訳実習の指導方法 模擬講座演習
15	各場面における通訳技術実習の指導方法
16	手話通訳技術レベルアップの指導方法
17	講義 手話通訳派遣におけるコーディネートの役割
18	講義 手話通訳登録制度と報告書の役割
19	講義 手話通訳士養成カリキュラムについて
20	講義 講師としての心構え

委員名簿

【 委 員 名 簿 】

本委員会

- 委員長 安藤豊喜 (財団法人全日本ろうあ連盟理事長)
- 委員 (ア行順)
- 石野富志三郎 (財団法人全日本ろうあ連盟事務局長)
- 石原茂樹 (社会福祉法人聴力障害者情報文化センター手話試験部部長)
- 奥野英子 (筑波大学大学院教授)
- 川根紀夫 (日本手話通訳士協会事務局長)
- 木下武徳 (北星学園大学講師)
- 黒崎信幸 (財団法人全日本ろうあ連盟副理事長)
- 小中栄一 (財団法人全日本ろうあ連盟手話通訳対策部長)
- 近藤幸一 (全国手話通訳問題研究会事務局長)
- 坂井田美代子 (社会福祉法人全国手話研修センター職員)
- 柴田浩志 (特定非営利活動法人
全国聴覚障害者情報提供施設協議会理事)
- 前嶋康寿 (静岡県健康福祉部障害者支援総室障害福祉室
身体障害福祉係長)
- 松本晶行 (財団法人全日本ろうあ連盟副理事長)
- 山形恵治 (全国手話通訳問題研究会運営委員)

調整委員会

- 委員長 石野富志三郎 (財団法人全日本ろうあ連盟事務局長)
- 委員 (ア行順)
- 川根紀夫 (日本手話通訳士協会事務局長)
- 木下武徳 (北星学園大学講師)
- 小中栄一 (財団法人全日本ろうあ連盟手話通訳対策部長)
- 近藤幸一 (全国手話通訳問題研究会事務局長)
- 林智樹 (金城学院大学教授)

設置・派遣作業委員会

- 委員長 石野富志三郎 (財団法人全日本ろうあ連盟事務局長)
- 委員 (ア行順)
- 伊藤正 (全国手話通訳問題研究会運営委員)
- 木下武徳 (北星学園大学講師)
- 清田廣 (社団法人大阪聴力障害者協会会長)
- 近藤幸一 (全国手話通訳問題研究会事務局長)

養成・認定作業委員会

- 委員長 小中栄一 (財団法人全日本ろうあ連盟手話通訳対策部)
- 委員 (ア行順)
- 内田元久 (神奈川県聴覚障害者連盟コミュニケーション対策部長)
- 川根紀夫 (日本手話通訳士協会事務局長)
- 林智樹 (金城学院大学教授)
- 山形恵治 (全国手話通訳問題研究会運営委員)

発行日：2006年3月25日

企画・編集：聴覚障害者のコミュニケーション支援の現状把握及び再構築検討委員会

発行：財団法人 全日本ろうあ連盟

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8F

TEL03-3268-8847 ・ FAX03-3267-3445

ホームページ <http://www.jfd.or.jp/>

Eメール inquiry@jfd.or.jp

印刷：日本印刷株式会社

この事業は、独立行政法人福祉医療機構(長寿社会福祉基金)の助成により行ったものです。





この事業は、独立行政法人福祉医療機構（長寿社会福祉基金）
の助成により行ったものです。

